

個別具体的な質問や、個別の文脈によって回答が異なる質問などは掲載していません。ご了承ください。

質問	回答
<b>1</b> 選考に関連する質問全般	選考の内容に関する質問にはお答えしていませんので、ご了承ください。
<b>2</b> 奨学金のスケジュールや申請方法	説明会スライド70, 77-84をよくご確認ください。
<b>3</b> ○○○○について学びたいのですが、そのような授業がとれるあるいは、研究できる交換留学先はありますか。またどのようにして探せばよいですか。その他、協定校の情報の調べ方、協定校の選び方（第一～三希望の順位付け）、自分の"GPA"とある協定校への申請可否。	説明会スライド21-38を参考に調べてみましょう。
<b>4</b> 学外奨学金と、学内奨学金(プログラム付属奨学金)の応募をどちらも行うこと(併願/重複応募)は可能ですか？	可能です。ほとんどの奨学金が、全学交換留学の結果が出る前から募集を開始しています。全学交換留学の結果が出る前に応募することをお勧めします。留学開始の1年前ぐらいから募集開始・締切がきはじめますので、早めに調べて、準備してください。全学交換留学プログラム付属の奨学金については、UTAS申請時に応募することが必要です。ただし、支給が決定した後、全学交換留学プログラム付属奨学金はその他奨学金と併給できる場合、できない場合があります。併給可否はそれぞれの奨学金の個別の要件によります。
<b>5</b> 奨学金は円安などの経済情勢に応じて増えますか。	現時点で、全学交換留学プログラム付属の奨学金について、為替や経済の情勢に応じて金額が変わる予定はありません。
<b>6</b> 留学による留年の可能性や、進学選択への影響についての質問	全学交換留学に参加する学生の多くが、標準修業年限を超えて本学に在籍することになる傾向があります。ただし、近年、前期課程と後期課程を跨る留学が可能な後期課程学部が多くなっていることの影響は未知数です。さらに、皆さんそれぞれの履修計画や、単位認定の見込みによって、卒業が標準修業年限を超える可能性や、進学選択への影響は変わりますので、断定的な回答はできません。よく、留学時の所属学部・研究科に確認・相談してください。
<b>7</b> 留年中でも申請できるか、留年するかどうかをいつまでに決めなければいけないのか、申請後に留年予定を変更できるのか	留年してても在学していれば、全学交換留学への申請は可能です。UTAS申請時、「卒業・修了予定」という欄で、計画を申請いただくことになります。変更の予定や期限については、留学時の所属学部・研究科に確認・相談してください。
<b>8</b> 外国人留学生も申請できますか。	募集要項の応募資格・条件を満たしていれば、外国人留学生も申請できます。ただし国費留学生の方については、奨学金も含めて様々な注意事項や制約がありますので、早めに所属学部・研究科の担当部署にご相談ください。
<b>9</b> ある特定の時期から、休学あるいは留年の形で1年留学することはできますか。	「休学」中は全学交換留学に参加できません。学籍や履修計画については留学時の学部・研究科に事前に相談してください。
<b>10</b> 東大の学費免除を受けていますが、学費免除は継続されながら交換留学に行けますか。	授業料免除対象であることは、全学交換留学の申請資格には影響しません。
<b>11</b> 留学時に所属する予定の学部・研究科からの留意事項説明の内容・方法に関する質問	学部・研究科ごとに、内容・方法は異なりますので、以下「学部・研究科の連絡先」を確認の上ご自身で連絡してください。 <a href="https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-department.html">https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-department.html</a>
<b>12</b> 協定校での単位取得は必須であるか、現地で取得した単位の単位認定について	学部学生の場合、協定校で履修し、単位を取得する場合はほとんどで、学部・研究科によっては単位認定は必須になっています。事前に留学時の所属学部・研究科によくご確認ください。単位認定についても、留学時の所属学部・研究科に相談してください。
<b>13</b> 学部4年生での申請(大学院修士1年生での留学予定)について。事前に所属するかもしれない研究室の教員の内諾について。	本学の学部4年生が、大学院進学を前提に修士1年生での留学計画で申請することは可能です。アーカイブ動画、スライドをよくご確認ください。所属を予定/希望している研究室の指導教員には、よく確認してください。
<b>14</b> 現在学部4年で、2つの研究科を併願して院試を受け、いずれに進学するかまだ決められていないのですが、両方の学科に相談する必要がありますか。	はい、それぞれの進学予定先に相談してください。
<b>15</b> 大学院の留学について(申請できるか、協定校での学習計画、本学での研究への影響、論文提出のタイミング)	大学院の学生も、募集要項の応募資格・条件を満たしていれば申請できます。ただし、協定校で授業を履修できるのか、履修できるとしてもレベルに制限があるのか、研究指導を受けられるのかは、協定校によって異なります。協定校の情報をよく確認し、不明点があれば早めに確認しましょう。本学での研究や論文への影響は指導教員に、履修と修了の計画については所属の研究科によく相談してください。
<b>16</b> 大学院生が研究活動が行える協定校の調べ方、研究活動と授業履修の詳細、既存の研究室間のコネクションの重要性について	興味のある協定校それぞれについて、研究活動をするための留学が可能かや、その詳細を確認していただく必要があります。公開されている情報から読み取れない場合は所属の学部・研究科を通してお問い合わせください。協定校の回答に時間を要する場合がありますので、余裕をもってご相談いただくことをお勧めします。また、研究留学の場合、ご自身で指導を希望する協定校側の教員に事前にコンタクトしていただくことを推奨します。研究室間でコネクションがあれば活用いただいても良いかと思います。
<b>17</b> 大学院修士一年が学部学生用(undergraduate)のプログラムに参加できるかどうか	申請資格として「undergraduateのみ」と明記されていれば不可ですが、そうでない協定校ならば、可能なケースもあります。協定校によって異なるので調べてみましょう。

18	特定の研究テーマがないと留学はできませんか。純粋に海外での生活を体験したいという志望動機では弱いですか。	選考内容についてはお答えできませんが、UTASの項目を、指示に従って記入していただく必要があります。
19	「留学」と「研究指導の委託」の違いについて	学籍が異なることによる影響や手続きの違いは、所属学部・研究科にご確認ください。また、それとは別に、大学院生が活動を行う留学をできるかどうかは協定校によって異なるので個別に調べていただく必要があります。
20	海外大学院進学に関する質問	本説明会は海外大学院への進学や、全学交換留学が海外大学院進学に与える影響については回答しません。本学では社会連携本部(卒業生担当)が海外大学院進学イベントについて担当していますので参考してください。 <a href="https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/support-programs/advisory.html">イベントウェブページ (本年度説明会はすでに実施済)</a> : <a href="https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/support-programs/advisory.html">https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/support-programs/advisory.html</a> <a href="https://www.u-tokyo.ac.jp/contact/news_mail_j.php?dir=h-0303">お問合せフォーム</a> : <a href="https://www.u-tokyo.ac.jp/contact/news_mail_j.php?dir=h-0303">https://www.u-tokyo.ac.jp/contact/news_mail_j.php?dir=h-0303</a>
21	特定の大学の要件の確認方法、あるいは特定の条件で申請できる協定校の探し方	協定校のHPや、ファクトシートに要件が載っています。また、説明会スライド28-31も今一度ご参照ください。「協定校情報一覧」にも情報が載っている場合があるのでよくご確認ください。
22	語学要件 (HOME EDITIONの扱い、認められる証明書の種類、有効期限、提出方法、PEAK生の提出物、英語以外での学習・研究を行う場合の必要提出物) について	募集要項8ページの「※問い合わせの多い事項について」に記載がありますのでご確認ください。なお、ビザのための語学要件については、ご自身で確認・対応いただくことが基本です。
23	協定校情報一覧に英語以外の語学要件が記されていたとしても、UTAS申請時に記入した使用言語が英語であり、英語のみを使用する留学計画が可能である場合、現地語のスコアは提出不要という認識であっていいのでしょうか。それとも、協定校情報一覧で「language other than English」に記載のあるものは、その言語も語学要件を満たさなければならないのですか？	説明会スライド59を参照してください。
24	語学能力証明書のPDFでの出し方について	募集要項を参照してください。紙しか手元にない場合は、スキャンやアプリ使用でPDFにして、所定項目にアップロードしていただく必要があります。なお、PDFは内容がきちんと読めれば、カラーでもモノクロでも大丈夫です。
25	英語以外の語学書類の提出時の翻訳は、自分でするのでしょうか。	英語以外の言語で記入されている証明書類に添付する和訳ですが、翻訳会社や翻訳証明は不要で、ご自身で作成していただいても問題ありません。また形式等については指定はありませんので。
26	行きたい大学の設けている語学要件がコースによって違う場合、学内選考の段階で行きたいコースの要件を満たしておく必要がありますか。	はい。学内選考時に要件を満たしていることが条件です。1点でも足りていない場合は要件をみなさないと判断されます。
27	異なる語学スコアを大学別に提出することは可能かどうか。(セクション毎に要件が設定されている場合など。)	前提としていずれも有効期限内のスコアであり、提出時に1つのPDFファイルにまとめて正しい項目にアップロードいただけるなら、複数の受験回のTOEFLスコアを提出いただくことは可能です。
28	申請時には語学スコアを満たしていても留学時には期限が切れる場合はどのような扱いになりますか	学内申請時と、協定校申請時の両方で有効な語学能力証明書を提出することが要件となります。
29	学内選考で提出するスコアの有効期限が、学内申請のときには有効でも、学内選考中に切れます。語学スコアは協定校申請時にも有効である必要がありますか。	はい、語学スコアは、協定校申請時にも有効であることが求められるのが原則です。有効期限がきれば、また、受験していただく必要があります。
30	締め切りまでに語学証明が間に合わないなら、次回申請するしかありませんか。	締め切りまでに必要な応募書類が整っていない場合は申請は受理されません。語学のスコアは早めに取得しておきましょう。
31	東京大学の英語の成績証明の作成・入手方法・必要が必要な者	英文成績証明書は、学部・研究科によって、証明書自動発行機で出せるかどうかや、発行にかかる日数が異なります。早めに、入手方法を確認してください。なお、募集要項に記載の通り、本学の英文証明書は、東京大学ですべて単位を取得し成績証明書を発行できる者は提出する必要があります。学部2年生であれば成績証明書は発行できますので必要です。
32	所見事項を依頼する教員や、所見事項の締切について	募集要項に記載の通り、指導教員以外でも皆さんの人物を把握できる本学教員であればどなたでも大丈夫です。非常勤講師の先生でも大丈夫です。初見事項の締切については、所属学部・研究科の指示をご確認ください。
33	本学での指導教員について	所見事項の話でしたら、上の通りです。指導教員の定義については、所属の学部・研究科にご確認ください。
34	留学できる可能性を高めるにはどうしたらいいか。	まず今回の秋募集で、第一～第三希望まで記載したうえで、追加選考を希望しましょう。部局間交換留学との重複申請が可能かどうかは、所属の学部・研究科に相談してください。
35	新型コロナウイルス未接種の場合、選考や留学で不利になることはありますか。	選考に、ワクチン接種状況は影響しません。ただし、学内選考を通過し協定校の受入許可がでて、いざ留学することになったときには、協定校側のワクチン接種に関するルールに従う必要があります。

36	標準修業年限を超えてから交換留学に申し込む／で留学することは可能でしょうか。	標準修業年限を超えていること自体は申請を妨げるものではありません。ただし、申請中に、学籍を失うことが明らかな場合は申請できません。詳細は、所属学部・研究科にご相談ください。
37	帰国後の学年がどうなるのか、いつから本学での履修を再開できるのか、自分の卒業時期はいつになるのか、留年と休学の計画について	ご自身の計画の案を検討したうえで、留学時の所属学部・研究科にその可否や実現可能性を確認・相談してください。
38	協定校によっては、受け入れ最大人数が去年と比べて倍以上に増えていると思うのですが、正しい人数でしょうか。	もし、「協定校一覧」の「最大募集人数」をご覧になっての質問でしたら、最大の数であり、1人が2枠使えば、人数としては半分になることにご注意ください。
39	コロナ、サル痘などの影響で留学を予定していた国がロックダウン、渡航禁止などになった場合、別の国の大学への留学に切り替えることは可能ですか。	そのような対応は予定していません。なお、関連するQ&Aが、全学交換留学（USTEP）のFAQページのQ5にあるので、参照してください。 <a href="https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/application-tips-USTEP_FAQ">https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/application-tips-USTEP_FAQ</a>
40	次の春募集の見込みについて	毎年状況は異なります。秋募集でも春学期から留学することを選択できますので選択肢の多い秋募集に応募されることをお勧めします。全学交換留学（グローバルキャンパス推進本部）応募・派遣状況は下記Go Globalウェブサイト「過去の応募状況」で公開されているので参考にしてください。秋募集で募集枠が消費された協定校・秋学期のみしか募集を行っていない協定校は春募集で「募集なし」と記載されています。
41	追加募集の実施予定について	<b>追加募集の実施予定はありませんので、注意してください。（説明会で触れたのは追加選考についてです。）</b>
42	本学での専門と異なる授業を留学中に主に履修できるかについて	アーカイブ動画、スライド（68）をよくご確認ください。
43	UTAS海外派遣で表示される数字が、Go GlobalのUSTEPのFAQに書かれていたGPAの計算方法によって算出される値と異なるのですがどちらの数値が応募の際に参照されますか？成績の参照範囲はどこまでですか？	東大の成績評価係数とGPAは異なります。学内選考時はUTASの成績評価係数欄に自動表示されます。ただし、他大学で学位を取得した方は、それに関する入力と再計算が必要です。今回の募集の場合、参照される成績は2022年5 Semesterまでのものになります。
44	自分のGPAが協定校の基準を満たしているかを知る術はない、という認識であっていますか？	GPAの算出については各協定校に一任しています。Go globalウェブサイトの「GPAについて」も参考にしてください。 <a href="https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/application-grades.html">https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/application-grades.html</a>
45	イェール大学の審査について	協定校の審査についてはお答えできませんが、イェール大学は学内選考を通過した後、協定校からの受入許可が出ない場合が他の協定校と比べて多くあります。
46	「2022年度 東京大学 全学交換留学（グローバルキャンパス推進本部担当）2023-2024年秋募集」の表では、「対象」欄にはMasterや大学院学生との表記の使い分けがあるようですが、Masterは修士号取得後のことでしょうか。	「協定校情報一覧」の中の「対象」のことという前提で回答しますが、Masterと記載がある場合、留学時修士の学生を対象とするという意味です。博士は含まないため、大学院生 = Graduateと区別して表記しています。
47	部局間交換留学（KOMSTEP、「〇〇学部での交換留学プログラムの実施の有無」、特定の学部の授業履修に department levelの協定が必要とされている、等）について	全学交換留学と部局間交換留学は異なります。混同しないよう注意いただき、留学時に所属する学部・研究科の担当部署に確認してください。
48	パスポートの有効期限について	パスポートの有効期限が切れたり少なかったりしても学内申請時点では問題ありませんが、協定校への申請時点では有効なパスポートを保持していることが必要です。より細かい残存期間を、協定校や国・地域が定めている場合もあります。
49	4年生のAセメスターからフランスに留学したいのですが、フランスでは学部は3年までです。どの学年に所属することになるのでしょうか。	フランスの協定校でも4年制の場合がありますので、一概にというわけではありませんが、交換留学の場合、交換留学生の履修可能なコースを履修することになりますので、〇年生というような区別はされていないのが一般的です。
50	申し込み後、辞退はどの段階まで可能ですか。奨学金が受けられなかったら、留学を辞退できますか。	基本的に辞退はできません。ただし、コロナ禍が続く中では、これを理由とした辞退はやむをえないと考えます。手続き途中での辞退は協定校側での手続き等にも影響してしまうので、コロナ禍を理由とするものでも早めの判断をお願いすることもあります。
51	GLP-GEFIL programとぶつかっても、全学交換留学に申請することはできますか。	申請は可能です。ふたつのプログラムのスケジュールが重複していないなら、参加も可能です。
52	1年間の交換留学期中に、現地でインターンシップをすることは可能ですか？	グローバルキャンパス推進本部としての制限はありませんが、学習・研究活動に影響しないことが大前提です。当然、留学期に所属学部・研究科にも事前に相談してください。また当然、現地での滞在資格に抵触しないよう、よく確認いただく必要があります。
53	過去の申請の傾向やデータに関する質問	Go Globalウェブサイトに掲載していますので参考にしてください。なお、学部ごとのデータは公表していません。 <a href="https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html">https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html</a>
54	海外で病気になり通院が必要になった場合の費用などについて	応募書類の誓約書に記載の通り、全学交換留学にあたっては、指定の海外留学保険（付帯海学）への加入が必須です。海外留学保険の約款にもとづいて、保険が適用されます。ただし既往症は対象外であるなど条件があります。さらに、国や協定校によっては現地の保険制度への加入が必須であり、その保険料の支払いが必須であるものの、医療費が無料、あるいは軽減される場合があります。